

2019年4月11日

鹿児島大学病院 脳神経外科 で
ジャーミノーマの治療を受けた患者さんへ
(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院脳神経外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

頭蓋内胚細胞腫における(1)bifocal tumor の意義、(2)髄液細胞診陽性症例の治療についての後方視的研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科
教授 吉本幸司

【研究の目的】

頭蓋内胚細胞腫は東アジアに頻度が高く、欧米においてはかなり稀な疾患です。しかしその特異な病態から注目度は高く、北米での Children's Oncology Group(COG)や International Society of Paediatric Oncology (SIOP)にて前方視的な臨床試験が進行しています。さらに、昨年頭蓋内胚細胞腫の診断と治療に関する国際グループによる診断・治療・予後に関する34項目のコンセンサスが発

表されましたが、(1) 尿崩症を伴う bifocal lesion が腫瘍マーカー陰性の場合、ジャーミノーマと診断してよい、という仮説はどの程度正しいか、(2) 髄液細胞診陽性のジャーミノーマにおいて、全脳脊髄照射が必要かどうか、という2つの問題についてはコンセンサスが得られず持ち越しとなり、解明すべき重要な問題と考えられています。本研究では、この2つの問題を解明することを目的とします。

【研究の方法】

診療録、画像、病理所見を後方視的に検討し、情報を収集します。共同研究機関で情報を収集し、個人情報に匿名化処理した上で、研究事務局に診療情報を提供します。情報提供時には解析情報の受け渡しとなり個人情報は含まれません。研究事務局は、個人情報が削除された症例リスト上で、解析をおこないます。

【対象となる患者さん】

1990年1月1日から2015年12月31日までに、鹿児島大学病院脳神経外科でジャーミノーマと診断され、化学療法、放射線治療を受けた患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

診療録から以下の情報を利用します。

患者背景、臨床検査結果、MRI所見、治療内容、病理診断、治療予後。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野の運営交付金で実施します。この研究は、多施設共同研究です。企業等の第三者機関からこの研究

のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 救命救急センター

特任助教 比嘉那優大

電話 099-275-5375 FAX 099-265-4041